

『香川・直島・豊島近代、現代建築の旅』

8月3日～4日暑い最中、教育事業委員会、女性委員会、青年委員会共催の事業『香川・豊島近代、現代建築の旅』に参加してきました。いままで、何度か研修目的の日帰り事業には参加しましたが、今回は色々楽しみでした。しかし、予定表をみてびっくりの強行スケジュール。朝の7時からバス、見学、バス、見学、昼食までバスの中と充実した建築見学旅行でした。

バスが出発して4時間ぐらいで瀬戸大橋に差し掛かり、何層にも続く橋と道、そして海、とても綺麗でした。

バスはそんな中、1つ目の目的地、『丸亀猪熊弦一郎現代美術館』に到着しました。このあたりは田舎です。ホッとしました。駅前にバスを停めてくるっと廻るとその美術館が出てきました。でかいー！事前にもらった資料と確かに形は同じです。でも、でかい・・・こういうのはやはり実際に見てみないとわかりません。迫力が違いました。

美術館内では、猪熊弦一郎氏の作品、ホンマタカシ氏の写真が展示されていましたが、さすが建築士会、学芸員の方の案内で一般には見学できないルート（美術品搬入から展示までの流れ）を見学させて頂きました。



2つ目は『東山魁夷せとうち美術館』です。こちらの建物も設計は谷口吉生氏です。美術品、瀬戸内の海と充実した時間でした。瀬戸内海に掛かる3つのルートの橋の色（ライトグレー）は東山魁夷さんが中心になって橋の色を決められたそうです。

3つ目は『香川県庁』を見学に行きました。設計は丹下健三氏で1958年建築の東館と2000年建築の本館です。40年後に本館を設計できるなんて、幸せだなーなんてことを思いました。

その日は高松に宿泊し、夜うどんを2杯も食べて、高松

ナイトを堪能しました。

次の日、高松港から貸し切りフェリーで直島、そして豊島へ向かいました。

4つ目の目的地、直島では妹島和世さん設計の『海の駅なおしま』を見学しました。

5つ目の目的地であり、きっと今回の旅行の目玉であろう、安藤忠雄氏の地中美術館の近くの『ベネッセミュージアム』を見学しました。本当は、地中美術館を見学する予定だったのですが、諸事情によりベネッセミュージアムに変更となりました。しかし、一部の参加者の方々は、予約がなくても、人数制限があってもどうしても一度地中美術館を見たいとダメ元で地中美術館へ行きました。その結果、見事、見学されたようです。（羨ましいなあ、行動力って大事だな・・・）

ベネッセミュージアムも安藤忠雄氏の設計でホテルも併設されている素敵な建物です。多数の美術品が展示されており現代美術に興味がある人にはたまらないんじゃないかなと思います。

6つ目の目的地、西沢立衛さん設計の豊島美術館です。下調べもせず旅行感覚で参加した僕には衝撃でした。（きっと皆さんはこれも目玉だったんだろうな）アーティストがすごいのか、建築家がすごいのか・・・美術品と美術館ではなく、島と空と水と空気が一体となった素晴らしい作品でした。初めて見る、初めて感じる不思議な空間で、とても心癒される美しい空間でした。



仕事・趣味を問わず、建築に興味をもち見学旅行に参加した僕たちには、非常に意義のある旅行でした。最後になりましたが、ご多忙の中、現地にて案内いただきました香川県建築士会の皆様及び今回の旅行を企画いただきました青年委員会の阿部さんに感謝申し上げます。

（青年委員会 徳本 豊）